

湘南医療大学 ティーチング・ポートフォリオ

大学名 湘南医療大学

所 属 保健医療学部 看護学科

名 前 倉橋 悠子

作成日 2024 年 9 月 24 日

1. 教育の責任

私は湘南医療大学 保健医療学部 看護学科にて、成人看護学領域を中心に授業を担当している。2024年度には、2年生から4年生の必修科目である「成人看護方法論Ⅰ・Ⅱ」「ヘルスアセスメント学Ⅲ」「ナーシングプロセスⅡ」「急性期看護実習」「看護基盤実習Ⅰ・Ⅱ」「統合実習」「看護研究Ⅱ」「チーム医療論」を担当する。これらの科目では、学生が看護の基礎知識を学び、実践力を養うことを目標としている。個々の学習ニーズに応じた指導を行い、フィードバックを通じて学生の能力を高めている。

また、学務として教務委員会や入試広報委員会に所属し、大学運営に積極的に関与している。さらに、3年次チューターとして、学生の学業や生活面の支援にも力を入れ、学業と生活が両立できる環境を整えることに尽力している。

看護の知識だけでなく、実践力も持ち合わせた質の高い看護師を育成することが私の使命である。また、これらの活動を通じて、学生が将来の看護師として自信を持って働けるような学習環境を整え、長期的な成長を支えることも重要な責任の一つと感じている。

2. 私の理念・目的

1) 私の理念

私は、看護において患者を全体的に捉えることが重要だと考えている。看護師は患者を単なる身体的な症状だけでなく、心理的・社会的な背景や生活環境を含めた全体を理解することで、質の高いケアを提供できる。患者が自らの力で前進し、回復へ向かえるように支援することが、看護師の大切な役割である。

この理念は、教育にも深く反映されている。学生が患者を全人的に理解し、包括的なケアを提供する力を養うことを目指している。また、学生が自己の行動や思考のパターンを認識し、自身の成長に繋げる力を身につけることも重要である。私は、学生が将来、全体性の視点を持ち、患者を包括的に支援できる看護師として成長し、さらにチーム医療においても有効に貢献できる存在になることを期待している。

教育の場では、知識と技術の習得だけでなく、患者との信頼関係を築くコミュニケーション能力を重視している。これにより、学生が患者を包括的に理解し、個別のニーズに応じた対応を行える力を育てることができると考えている。また、倫理的判断力や、患者の意思を尊重するケアも重要視しており、学生にはこれらの価値観も伝えている。看護師としての役割は単なる医療提供ではなく、患者の全人的な支援者であることを常に強調している。

2) 理念をもつに至った背景

私が「ホリスティックな視点で相手を捉え、患者や学生の力を信じて支援する」という教育理念を持つに至った背景には、私自身の臨床経験がある。病院で看護師として働いていた際、患者の身体的症状だけでなく、心理的・社会的背景や生活環境を理解することが重要であると強く実感した。特に急性期医療の現場では、迅速な対応と判断が求められる一方で、患者が持つ潜在的な力に注目し、フィードバックしな

から支援することが重要であると感じた。

また、患者を支援するためには、看護師自身が内省し、自己の行動や思考パターンを見直すことが不可欠であることも理解した。この経験は看護教育にも直結しており、学生にもホリスティックな視点を持ち、自己成長を遂げる力を育成することの重要性を伝えている。

このように、看護師としての臨床経験から得た洞察は、教育現場において役立っており、私の教育理念に大きく影響している。患者一人ひとりの背景や状況を理解し、チーム全体で最適なケアを提供するための視点は、看護教育の中核を成すものであると考える。

3. 教育の方法・戦略

私の教育方法は、学生が看護師として患者をホリスティックな視点で捉え、全体性を理解しながら支援できる力を身につけることを目指している。知識や技術の習得だけでなく、患者の背景や環境、心理的側面を含めた全人的なケアを提供できる看護師を育成するために、理論と実践をバランスよく組み合わせた授業を行っている。

1) 教育の方針

ホリスティックな視点を持つ力の育成

患者を単なる症状や病気として捉えるのではなく、その背景にある心理的、社会的要素も理解し、包括的に患者を支援する力を養うことを重視している。看護は単なる技術や知識の応用ではなく、患者と深く関わり、その人を理解し、支援する姿勢が求められる。

2) 方針を具体化する方法

教授方法

授業では、講義形式に加えて、ディスカッションやグループワークを活用している。これにより、学生が自分の意見を表現し、他者と意見交換することで多角的な視点を持つ機会を提供している。また、実際の臨床現場に近い事例を用いて、学生が現場で直面する問題を考え、よりよい方法を見つけ出す力を養っている。

授業の工夫

学生が主体的に参加できる環境を作ることを重要視している。講義だけでなく、実際に手を動かす演習やシミュレーションを取り入れ、理論と実践を結びつける学びを提供している。また、授業中には学生に問いかけを行い、リアルタイムでフィードバックしながら、学生の理解度に応じて授業内容を柔軟に調整している。視覚的な理解を助けるために、図表やイラストを活用し、内容を視覚的に伝える工夫も行っている。

開発した教材

模擬患者を使用した演習を取り入れている。これにより、学生は臨床現場に近い状況で実践的な学びを得ることができる。演習を通じて、看護師としての判断力や技術だけでなく、患者とのコミュニケーションの取り方やチーム医療の重要性も学ぶことができる。また、臨地実習で実際に学生が体験した事例をもとに、倫理的な判断を要する問題についてディスカッションを行い、学生が看護師としての役割を深く理解できるよう支援している。

授業以外の諸活動

授業外でも学生の学びをサポートするために、個別指導を行っている。個々の学生が抱える学習上の課題に応じたフィードバックを行い、学習の進捗状況を確認しながら指導を進めている。また、学生が自分の学習スタイルを認識し、効果的な学習方法を見つける手助けを行っている。さらに、グループディスカッションや課題において、学生が他者と協力しながら課題を解決する力を伸ばすことも重視している。

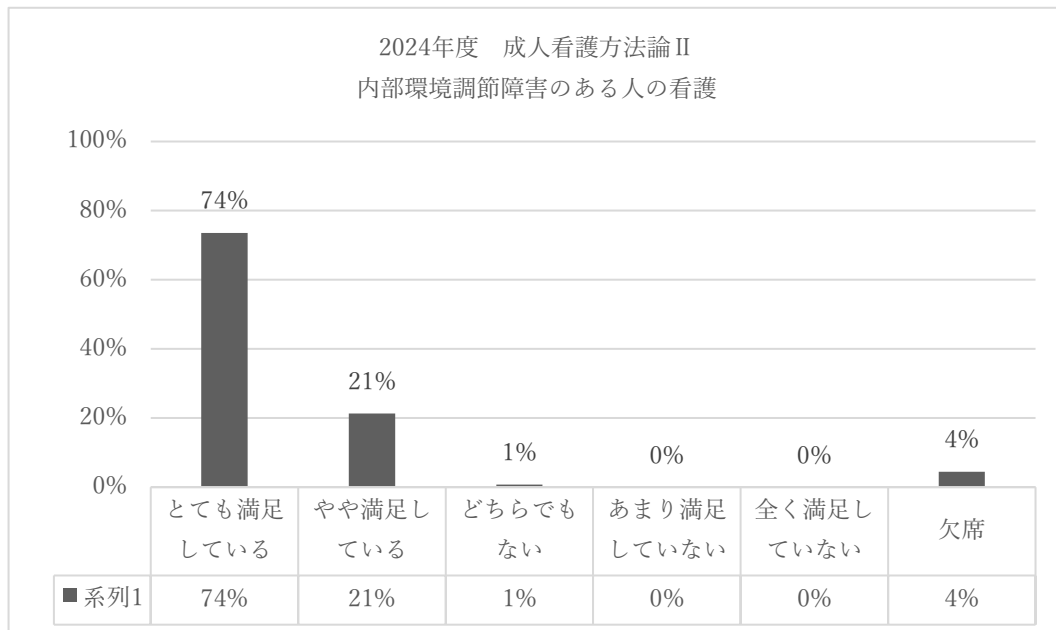
自己研鑽

私自身も教育スキルを向上させるため、教育学の専門家による授業に積極的に参加している。授業を通じて最新の教育手法や教育技術を学び、自身の授業内容を見直し、改善することを常に意識している。また、学生の多様な学習スタイルに対応するための工夫を継続的に行い、学生にとって学びやすい環境を提供することに努めている。教育者として成長し続けることが、学生にとっても良い学びの環境を提供できる要素であると考えている。

4. 学習成果

学生からの授業評価

2024 年度の学生アンケートでは、「講義内容が具体的で理解しやすい」「実際の事例やシミュレーションが興味深く、学習意欲が高まった」とのコメントが多く寄せられた。特に、事例やディスカッションを取り入れた授業が好評であった。



学生の成長

授業中にリアクションペーパーを活用し、学生の理解度を随時確認しながら授業内容を柔軟に調整した結果、学生の理解度や成績が昨年度に比べて向上した。

教育活動の発見・アイデア

事例を取り入れた授業を行うことで、学生がより実践的な学びを得られることを確認した。また、フィードバックを強化することで、学生が自分の学びに対する自己評価をしやすくなったと感じた。

5. 改善のための努力

スライドの視覚効果

スライドの文字数が多いと学生が集中しづらいと考えたため、文字数を減らし、図表やイラストを活用して、視覚的に理解しやすい資料を作成している。

フィードバックの充実

学生が自己の理解度を把握しやすくするため、講義中の反応をみてフィードバックを強化し、学生の学びをより深められるように改善している。

双方向性の強化

授業の双方向性を高めるため、学生とのリアルタイムなコミュニケーションを増やし、理解度をその場で確認しながら授業内容を調整するようにしている。

6. 今後の目標

短期目標として、次年度までに授業内容をさらに学生のニーズに合わせたものに改善し、授業満足度の向上を目指す。特に、フィードバックの質を向上させ、個々の学生が自

己の成長を実感できるように努めたい。また、学生の自主的な学びを促進するための新たな教育手法を導入し、学生が主体的に学習に取り組める環境を提供する計画である。

長期目標としては、他の教育者や専門家との交流を通じて、教育スキルのさらなる向上を目指し、看護教育の質をより高めていきたいと考えている。

【添付資料】

- ・シラバス:「成人看護方法論Ⅰ・Ⅱ」「ヘルスアセスメント学Ⅲ」「ナーシングプロセスⅡ」「急性期看護実習」「看護基盤実習Ⅰ・Ⅱ」「統合実習」「看護研究Ⅱ」「チーム医療論」
- ・開発教材・レポート課題・講義配布資料:「成人看護方法論Ⅰ・Ⅱ」「ヘルスアセスメント学Ⅲ」「急性期看護実習」「統合実習」「看護研究Ⅱ」
- ・学生アンケート:「成人看護方法論Ⅰ・Ⅱ」「ヘルスアセスメント学Ⅲ」「ナーシングプロセスⅡ」「急性期看護実習」「看護基盤実習Ⅰ・Ⅱ」「統合実習」「看護研究Ⅱ」「チーム医療論」
- ・テスト原本:「成人看護方法論Ⅰ・Ⅱ」「ヘルスアセスメント学Ⅲ」

以上